

第8回 東アジアガンカモ類ネットワーク支援鳥学者グループ(JOGA)研究集会

希少雁類復元・回復計画の経過と意義・今後の課題

企画者 須川恒(CXD00117@nifty.ne.jp)・呉地正行・鈴木道男・佐場野裕

企画趣旨

1999年より「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」の活動を支援する鳥学研究者のグループを設立して毎年鳥学会大会の際に集会を開いてきた(その詳細は以下のサイトをご覧ください <http://www.jawgp.org/anet/jgprop.htm> 本集会の要旨なども掲載予定)

第6回(2004年)よりガンカモ類にかかわる事業(計画)を扱っている。

今回は1980年代からはじまっている希少ガン類復元・回復計画の実施経過・背景情報について、かかわっている関係者から紹介していただき、中間的な評価を試み、今後の課題を整理したい。

企画趣旨の説明(5分)

呉地正行(日本雁を保護する会)「シジュウカラガン・ハクガン復元計画の経過と課題」(15分)

1980年代後半より日米が協力して宮城県でシジュウカラガンの越冬地放鳥による復元計画がはじまった。日露の関係がスムーズになった1990年代になってからは、日米露の3ヶ国が協力してシジュウカラガンに加えてハクガンの復元計画がはじまった。これらの経過の概要を紹介し当面の評価をおこない今後の課題について述べる。なお背景情報や計画の詳細は2006年に出版した「雁よ渡れ」(どうぶつ社)を参照されたい。

鈴木道男(東北大学)「江戸時代の図譜から見る希少雁鴨類の生息状況」(15分)

希少雁鴨類復元計画の目標として明治時代以前に現在は希少種とされている雁鴨類がどのような生息状況であったかを把握しておくことが重要である。2006年に私が解説を書いて出版した江戸時代の博物学者である堀田正敦の『観文禽譜』平凡社(¥36,750)から、江戸時代のシジュウカラガン・ハクガン・トモエガモなどの希少雁鴨類の当時の生息状況を紹介する。

阿部敏計(仙台市八木山動物公園)「野生シジュウカラガンの羽数回復事業」(25分)

極東アジアで絶滅の危機にあるシジュウカラガンの羽数と渡りの回復を目指して、仙台市八木山動物公園・ロシア科学アカデミーカムチャッカ太平洋地理学研究所・日本雁を保護する会が共同で行ってきた、かつての繁殖地である北部千島列島のエカルマ島への、カムチャッカにある繁殖施設で増殖させたシジュウカラガンの放鳥事業結果について報告する。概要は以下のサイトを参照されたい。 <http://www.city.sendai.jp/kensetsu/yagiyama/topics/2006/10.html>

佐場野裕(日本雁を保護する会)

「東アジアにおけるハクガン復元計画の実施状況と今後の課題」(25分)

東アジアのハクガン個体群を復元する日米露の共同計画が1993年に立案され、ウランゲル島にあるハクガンの営巣コロニーより卵をアナディールに運んだ。計画の内容と1993年以降の実施状況と主な結果、及び近年増加傾向にある越冬個体数の経年変化を示し、それらを踏まえて今後の計画の方向性を議論したい。

今後の課題の論議他(30分)